

第 7 章

水 産 業

第7章 水産業

概況

大阪府の漁業は、瀬戸内海に属する大阪湾の東半分を主要漁場とし、主として内湾性の魚介類を漁獲対象として営まれる沿岸漁業である。

大阪湾は淀川、大和川をはじめ、多くの河川が流入し、飼料生物は豊富で、瀬戸内海の中でも上位にランクされる生産性の高い漁場となっている。また、南北に連なる海岸線は、府内9市3町にまたがっている。

主な漁獲物は、魚類がほとんどで、なかでも「いわし類」「このしろ」が中心であり、次に「えび類」「たこ類」、その他の水産動物類「しやこ」となっている。

また、漁港は平成17年3月末現在で13港、そのうち第1種が11港、第2種が2港となっている。

海面漁業経営体・使用漁船数

平成17年1月1日現在で実施した漁業動態調査によると、府内における海面漁業経営体数は624経営体で、これを市町別にみると、岬町が126経営体で最も多く、次いで岸和田市が90経営体、泉佐野市が86経営体、阪南市が74経営体となっている。

また、経営組織別にみると、個人経営体が597経営体で、全体の95.7%を占めており、以下、共同経営が26経営体(構成比4.2%)、漁業生産組合が1経営体(同0.2%)となっている。

経営体が調査期日前1年間に使用し、調査日現在も保有している漁船の総隻数は949隻で、その内訳をみると、動力船が909隻(構成比95.8%)、船外機付船が40隻(同4.2%)となっている。

動力船についてトン数規模別にみると、「5～10t」が475隻(構成比52.3%)と最も多く、次いで、「1～3t」が196隻(同21.6%)、「3～5t」が124隻(同13.6%)、「10t以上」が60隻(同6.6%)の順となっている。

海面漁業漁獲量

平成16年の総漁獲量は1万5780tで、これを市町別にみると、岸和田市が1万2372t(構成比78.4%)と最も多く、次いで泉佐野市が1066t(同6.8%)、岬町が785t(同5.0%)となっており、この2市1町で全体の90.2%を占めている。

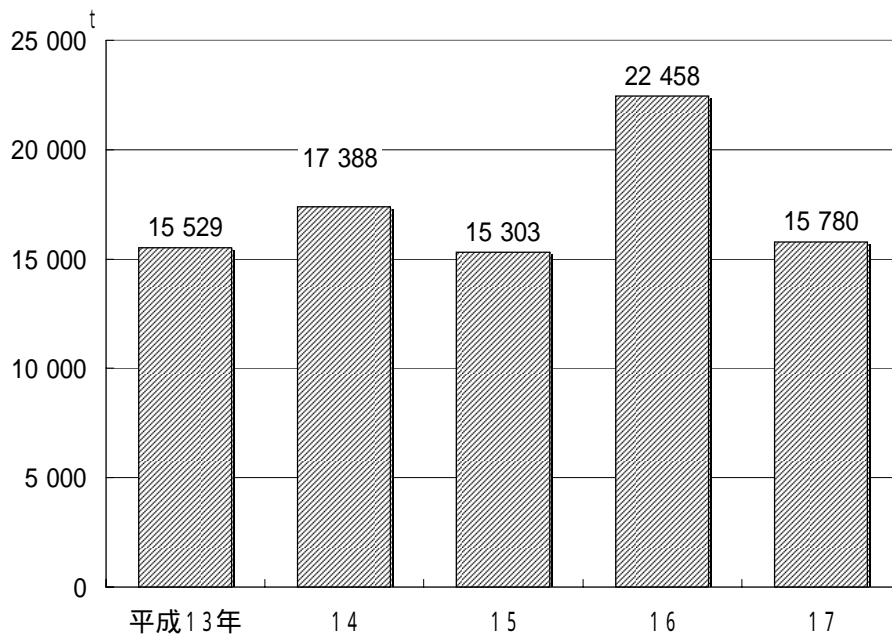
また、漁業種類別にみると、2そうまき巾着網が1万862t(構成比68.8%)、ひき回し船びき網2403t(同15.2%)、小型底びき網1408t(同8.9%)の順となっており、この3漁業で全体の92.9%を占めている。

魚種別では魚類が1万5004t(構成比95.1%)と漁獲量のほとんどを占めており、以下、えび類167t(同1.1%)、たこ類216t(同1.4%)の順となっている。魚類のうち「いわし類」が7945tで最も多く、全漁獲量の53.0%を占め、次いで「このしろ」が3030t(同19.2%)、「いかなご」が914t(同5.8%)となっている。

内水面漁業漁獲量

平成16年の内水面漁業漁獲量は24tで、魚種別では、「さけ・ます類」が23t、「あゆ」が1tとなっている。

海 面 漁 業 漁 獲 量 の 推 移



市町別、海面漁業漁獲量の割合（平成17年）

